

令和 3 年度 北多摩南部保健医療圏難病対策地域協議会 報告

| | |
|------------|---|
| 開催期間 方法 | 令和 3 年 11 月 24 日（水）～12 月 24 日（金） 書面による開催 |
| 議事内容 | <p>テーマ 難病療養体制の充実を目指して～新型コロナウイルス感染症と災害対策～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新型コロナウイルス感染症流行期の在宅難病患者の療養体制について、保健所の対応、事例から地域主治医の活動、感染対策のマニュアルの作成などを紹介 2 在宅難病人工呼吸器使用者と災害対策について、災害時の電源確保の取組を紹介 3 安全に在宅療養を継続していくための現状及び意見をアンケートにより把握 |
| 意見等 | <p>前年度協議会結果を踏まえ、管内 6 市障害主管課、高齢主管課、管内医療機関、訪問看護ステーション、在宅医療介護連携支援センター、患者団体、相談機関等の協議会委員と、今年度の実態や取組、新たな課題を共有、アンケートによる意見集約をした。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 適切な感染対策の実施と必要な保健医療福祉サービスの継続的な提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各機関が標準予防策を実践した。患者への資料配布、自組織内や支援者への研修を行ったところがあった。個別の会議、各市の在宅療養支援会議等で多職種連携が図られていた。一方で、自宅療養者への訪問が中止されることもあった。 ・ ネットワーク環境を利用した会議や打合せ、医療介護専用の SNS の利用が進んだ。在宅患者のオンライン診療は未整備で電話診療が中心となっていた。 ・ 患者や家族の療養において、マスクを着用できない方もいた。 ・ 入院中に面会や退院カンファレンスができずに退院することがあり、在宅サービス調整の難しさがあった。 2 感染症の正しい知識の普及 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者へリーフレット等の提供、WEB でワクチンや感染症対策を周知していた。 ・ 感染症科のある医療機関から近隣医療機関への助言、市民有志ネットワークや医療機関と介護事業所のサイトを生かした情報発信、支援者向け研修等で普及啓発をしていた。 ・ 難病患者がコロナ陽性となり、入院に至らず在宅療養せざるを得ない状況に、知識、技術、物品が不足している地域支援者が支援に入れなくなる事態も生じた。感染症対応のガイドラインが必要。 3 家族感染時の療養者の入院及び療養体制の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 要介護者の受入体制整備事業は、令和 2 年度以降 4 市で高齢者中心に 10 数件が利用した。感染症流行時の医療介護人材の確保、感染症対策の不安緩和などの課題があった。通常のサービスの範囲内で対応できた市もあった。 ・ 家族が陽性となった場合、難病患者の受入や福祉サービスの継続が難しい。 4 在宅難病人工呼吸器使用者への災害対策等に関連する取組や意見 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者は日頃から物品等の備蓄に務めており、市や支援者が定期点検をするところもあった。事業所、市では、災害時等のための物品の備蓄と適宜、配布に努めていた。 ・ 電源確保のために、企業と行政が一緒に取り組んでいることが、心強い。 ・ 市として、在宅難病人工呼吸器使用者の避難場所及び充電可能な施設の整備が進んでいないことを知った。また、避難行動要支援者や災害時個別支援計画については、担当部署が複数あるため、各部署の役割を明確にし、緊急時、連絡調整や対応が滞らないようにする必要がある。 |
| 今後に向けて | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の流行が長期化する中で、難病患者、家族が陽性になった場合を想定して、患者家族とともに平時から準備をすすめる必要がある。また、往診、訪問看護や介護等の療養支援が継続できるように、感染症の理解と対応の普及を図る。 ・ ネットワーク環境を利用した診療体制や会議の推進とともに、在宅療養支援会議等で人工呼吸器使用者等の電源確保を含めた難病患者の療養の課題についても、共有していく必要がある。 |